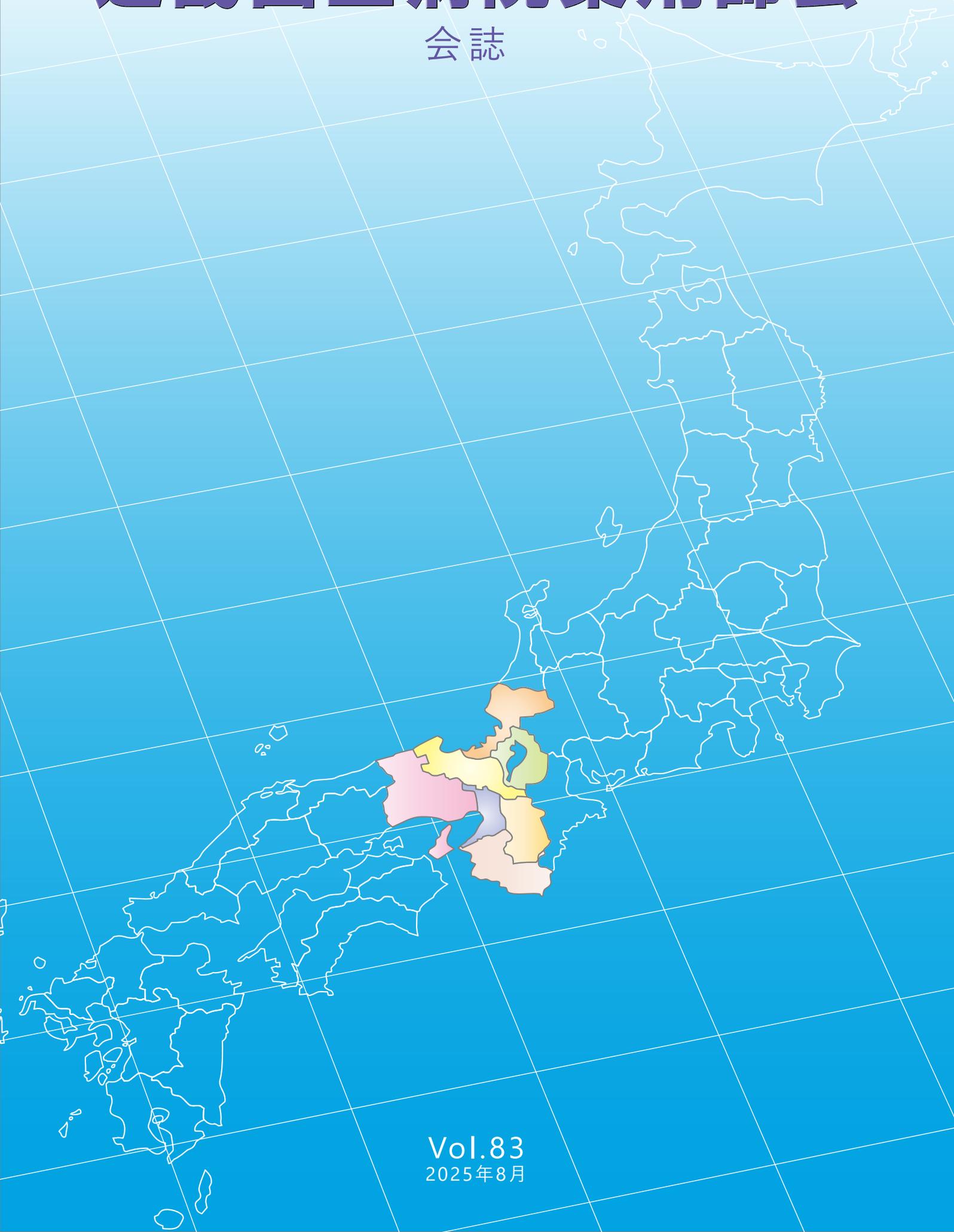


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.83
2025年8月

目 次

提言.....	2
	南京都病院 庄野 裕志
薬剤部紹介.....	3
	神戸医療センター 海家 亜希子
「薬剤師の集い」に参加して.....	5
	やまと精神医療センター 松浦 加奈子
「薬剤師の集い」に参加して.....	6
	南和歌山医療センター 新垣 遼太
第 18 回日本緩和医療薬学会年会に参加して.....	7
	神戸医療センター 永井 詩織
第 14 回日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2025 参加報告.....	8
	姫路医療センター 村上 達哉
外来がん治療認定薬剤師の取得について.....	9
	和歌山病院 清水 宏太郎
趣味のページ.....	10
	大阪南医療センター 仲野 真実
編集後記.....	12

提言

～想像する薬剤師でありましょう～

南京都病院 庄野 裕志

病棟に上がり始めた頃、当時C型肝炎治療の主流だったインターフェロンを導入した患者の服薬指導を行った。50代の快活な男性で副作用の発熱はあったものの大きな変化はなくその日は指導を終えた。翌日、病室の前を通ると、ベッドがなくなっていた。急変して、ICUへ転棟したのだった。急変の原因は、インターフェロンによる脳出血であった。前日まで普通に会話していたのに、突然いなくなった。薬の怖さを目の当たりにした忘れられない経験である。

それ以降も様々な薬の怖さを体験した。ハロペリドール注を投与している患者の表情がなくなったり、フェンタニル貼付剤で呼吸抑制が起こったり、さらに貼付剤を剥がしてナロキソン注を投与してもなかなか呼吸抑制が改善しなかったり、と成書に書かれているような内容が目の前で起こった。治療で使った薬の副作用に苦しむのは納得しがたく、できる限り避けなければならぬと思う。予見することが難しい場合も多いが、起こってからでは遅い場合もある。このままの投与が続けばどうなるだろうと目の前の患者で想像することが、副作用未然回避の第一歩だと思う。それには添付文書や適正使用ガイドはとても参考になる。作用機序の延長上にある効果はどうか、代謝排泄機能はどうか、色々な条件も加味して想像し、評価しなければならない。

先日、ニュースで抗凝固剤を服用中の患者が入院後腎機能低下を確認されたのに通常量が継続され脳出血を起こした事故が報道された。薬剤師は電子カルテで過量投与であることを伝えたが、医師は確認せず、通常量で8日間投与を継続し脳出血を起こしたというものだ。記事にない対応が当事者間であったかもしれないが、電子カルテに記載しただけで終わったと仮定すると十分な対応とはいえない。目の前の患者に出血の副作用が起こるかもしれないと想像していたらカルテに記載しただけでは終わらなかったのではないだろうか。

知識や経験の差で想像の幅は違うので、広く想像できるように日々研鑽を積むことは大切である。また治療の利益と副作用の不利益とのバランスの中で、治療を優先することもあるので、副作用を許容しなければならないこともある。

ただ、薬が人にとって「益」となるように想像する薬剤師でありましょう。



独立行政法人国立病院機構

神戸医療センター

National Hospital Organization Kobe Medical Center

【病院概要】

神戸医療センターは、神戸市の中心地である三宮から市営地下鉄で約 20 分、須磨ニュータウンの拠点駅である名谷駅からバスで5分ほどの場所に位置しています。名谷駅周辺では、神戸市が進める「リノベーション・神戸」プロジェクトにより大規模な都市開発が進み、2025 年 3 月 18 日には駅直結の商業施設「tete 名谷」がグランドオープンし、神戸名谷エリアの新たな玄



関口として、活気あふれる賑わいを見せています。

当院は 1918 年(大正 7 年)に神戸市立屯田療養所として開設されて以来、独立行政法人国立病院機構の総合病院として、304 床の急性期医療を提供しています。基本理念に「すべての人の立場に立った医療サービスの提供」を掲げ、地域の皆様に寄り添う医療を実践しています。また、がん診療、循環器疾患、精神疾患など、国が定める政策医療を担う専門医療施設として高い医療水準を提供している点が強みです。特に、脊椎変形疾患においてはパイオニア的存在であり、国内でも有数の手術実績を誇ります。また、WHO/UNICEF から「赤ちゃんにやさしい病院(BFH)」に認定されており、母乳育児支援にも積極的に取り組んでいます。診療科は、内科、外科、整形外科、脳神経外科、産科、婦人科、小児科、眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、乳腺外科など、幅広い診療科を有し、地域の医療ニーズに多角的に応えています。

【薬剤部概要】

当院薬剤部は、薬剤部長、副薬剤部長、主任 5 名(調剤、薬務、製剤、医薬品情報管理、

治験)、薬剤師 12 名(うち育児休業 2 名)、薬剤助手 1 名の計 20 名体制で業務にあたっています。チーム医療として、ICT・NST・褥瘡・DCT へ参画し、治験、AST においては薬剤師が専従として活動しています。

私たちは、薬剤師の専門性を最大限に活かし、患者さんへの安全で質の高い医療提供、そして医師をはじめとする多職種との負担軽減に積極的に取り組んでいます。近年は、以下のような重要な加算取得やシステム導入、取り組みを進めてきました。

2023 年 1 月より周術期薬剤管理加算を取得し、手術を受ける患者さんの薬物治療管理を強化しています。薬剤師が術前から術後まで一貫して介入し、服薬状況やアレルギー歴の確認、休薬指示の徹底、術中・術後薬剤の適正使用推進など、薬学的管理を提供しています。2024 年度診療報酬改定で新設されたバイオ後続品使用体制加算も取得しています。高額なバイオ医薬品の医療費適正化と患者さんの経済的負担軽減のため、品質、有効性、安全性が先行品と同等であるバイオ後続品の積極的な導入を進めています。医療 DX 推進の大きな柱である電子処方箋について、2025 年 4 月より発行を開始できるように、マスターデータの整備等、円滑な運用開始に向けた準備を進めてきました。PBPM についても、院外、院内の両方に積極的に取り組み、医師の負担軽減と薬物治療の質の向上に努めています。

これらの取り組みを通じて、神戸医療センター薬剤部の薬剤師は、チーム医療の重要な一員として、薬物治療に深く関わり、医療の質の向上と効率化に貢献しています。



(文責:海家 亜希子)

「薬剤師の集い」に参加して

やまと精神医療センター 松浦 加奈子

5月24日に大阪市此花区にある The Day Osaka で「薬剤師の集い」が開催されました。当日は生憎のお天気にもかかわらず、多くの先生方がご参加されていました。まるで森の中にいるような剪定された木々や落ち着いた色調の花々に囲まれた雰囲気の下、BBQやご歓談を楽しまれていたように思います。

集合して早速、どこのグループがいち早く火をつけることができるかというミッションが各グループに課されました。炭に火がつくようにうちわを必死で仰ぎ、最も早くミッションを達成したグループには、特別な食材が贈られたようです。火がついた後は、お肉や野菜に舌鼓を打ちながら、会話を楽しみました。普段、友人とご飯に行くときは少人数でタイ料理やベトナム料理などスパイシーな料理を食べることが多く、大人数で食べる BBQ 文化に馴染みのない人生を送ってきたので、とても新鮮な気持ちになりました。外で食べるお肉も美味しいですね。

新採用の薬剤師紹介では、お立ち台の上で自己紹介と1ヶ月経過した感想を述べました。私は非常に緊張しやすい性格なので、スピーカーから聞こえる自分の声に恥ずかしさを覚えながら、何とか自分の番を終えることができ安堵しました。他の同期は堂々と話していたので、感心しました。一人一人異なる大変さがあると思いますが、個々人の頑張りを共有することができてよかったです。

施設のホームページによると、自然との調和を大切にした場所ということで、季節や天気によって、その都度印象の変化を楽しめる場所だと思いました。雨も良い舞台装置になっていたのかもしれませんが。他施設の先生方と交流することができて、非常に良い経験になりました。

お忙しい中、企画のご準備を進めてくださった先生方に厚く御礼申し上げます。楽しいひとときをありがとうございました。

「薬剤師の集い」に参加して

南和歌和歌山医療センター 新垣 遼太

令和7年5月24日、The day Osaka(旧:大阪リゾートホテル・ロジック舞洲)にて開催された、「薬剤師の集い」に参加しました。私は新入職で初参加のため知らなかったのですが、薬剤師の集いはコロナ禍の影響もあり数年ぶりに開催されたと聞きました。また以前は、二日間にわたり釣りなどのレクリエーションや宴会、他施設の見学などもされていたようです。今年はバーベキューとの知らせを受け、近畿グループの先生方と交流を深めるために、ぜひ私も参加してみたいと思い、出席することにしました。

当日の主な内容としては、チーム対抗の火起こし対決、バーベキューを楽しみながらの意見交換、その後は新採用者の自己紹介といったプログラムでした。火起こし対決では私のチームは初めなかなか火を起こせず焦りも感じていました。隣のチームがすぐに火を起こせていたのでコツを聞くと、仰ぐ強さが足りないとアドバイスをいただき、仰ぐ人員を増やして交代しながら根気よく仰ぎ続けたことで、見事に火を起こすことができました。地味な作業ではありましたが、チームの皆さんと役割を分担したり皆さんとともに単純な作業や、小さな努力を継続することが身を結ぶということを体感できました。具体的な順位はわからなかったのですが、景品として牛タンを獲得することができました。とても柔らかくて程よい分厚さもあり、チームの先生方と喜びを噛み締めつつ、牛タンもまた噛み締め、味わうことができよい思い出となりました。

悪天候ではありましたが、新採用者の自己紹介では、雨音にも負けないくらいの声量でフレッシュさを存分に発揮したことで、会場の盛り上がりはピークに達していたように思います。私も入職してまだ一ヶ月という短い期間ではありますが、和歌山県田辺市で始めた一人暮らしでの日常生活のことや南和歌山医療センターで先輩からご指導いただいて少しずつ成長できていること、またこれからも精一杯頑張っていこうという熱い想いを伝えることができたと感じています。最後にはなりますが、薬剤師の集いに参加して他施設の先生方と交流できたこと、大変嬉しく思います。このような楽しく有意義な会を企画、立案、実施していただきました先生方、執筆の機会を与えてくださった先生方に紙面を借りて感謝申し上げます。

第18回日本緩和医療薬学会年会に参加して

神戸医療センター 永井 詩織

このたび、2025年6月20日から22日にかけて幕張メッセ国際会議場にて開催された「第18回日本緩和医療薬学会年会」に参加しましたので、報告させていただきます。

初日にはアドバンス教育セミナーが実施され、4つのセミナーを聴講しました。中でも、アブストラル舌下錠といった即放性オピオイド(ROO)に関する講演は、私自身の使用経験が少ないこともあり、理解を深める貴重な機会となりました。また、入院患者に対する医療用麻薬の自己管理に関して、当院では対象患者が長らく不在であったものの、今回の学びを通じてその有用性や判断基準について理解を深めることができ、今後はより積極的に取り組む必要性を感じました。

2日目以降は学術大会が開催され、私は3日目に「アパルタミド併用下の疼痛コントロールや不眠に難渋した一症例」と題し、過去に経験した症例について発表しました。入職後初めての口頭発表となり、スライド作成には苦慮しましたが、セッション開始前には座長の先生方や他の発表者の方々と意見交換を行う機会があり、また発表時には質疑応答も経験することができ、非常に有意義な時間となりました。

また、当院では最近メサペイン錠が採用となりましたが、まだ不明な点も多く、他のオピオイドからの切り替え方や副作用について等、今回の年会を通じて学びを深めることができたのは大変有意義でした。私は本年会に初めて現地で参加しましたが、参加を希望したシンポジウムや発表はいずれも満席であり、参加者の先生方の熱意を強く感じました。

最後に、本発表にあたりご指導・ご助言を賜りました先生方に、心より感謝申し上げます。今後も今回の経験を活かし、より一層研鑽を積んでいきたいと思っております。



第14回日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2025 参加報告

姫路医療センター 村上 達哉

第14回日本臨床腫瘍薬学会学術大会が2025年3月15日(土)～16日(日)の2日間に行われ、神奈川県のパシフィコ横浜ノースにて開催されました。

本学会は、「Challenges for the future～がんの克服を目指すために一人ひとりができること～」をテーマとしており、安心かつ納得できるがん医療・対策についての演題が多く、一人ひとりががんに関する正しい知識を身につけられる機会となりました。

今回は、「ゾルベツキシマブを含むレジメンの運用について」のポスター発表を行いました。

ゾルベツキシマブは、投与速度の調整や体表面積に応じた濃度調整が必要な薬剤で、医師に複雑な指示が求められるという課題がありました。そこで、当院ではゾルベツキシマブの投与及び調製に関する過誤を防止するために、医師、薬剤師、看護師などの多職種が医師の指示内容を把握できるレジメンの運用を多職種で検討しました。必要な指示を治療計画書に盛り込むことで、複雑な投与速度・濃度調整による過誤を回避し、投与及び調製に係る安全性が確保され、医師の負担軽減にも繋がりました。



学会では、初日の発表であったため、2日目は落ち着いて他の演題も聴講することができました。他病院でのゾルベツキシマブを含むレジメンの発表を見学することができ、当院と投与速度の設定や副作用予防の薬剤が異なる点があり、現地で意見交換ができ、貴重な体験ができました。今回は大変有意義な学会発表ができたと共に、さまざまな発表から大いに刺激を受けました。本学会で得た貴重な体験をこれからの業務に活かしていきたいと思います。

外来がん治療認定薬剤師の取得について

和歌山病院 清水 宏太郎

外来がん治療認定薬剤師は、外来がん治療を安全に施行するための知識・技能を習得した薬剤師の養成、地域がん医療において、患者さんとその家族をトータルサポートできる薬剤師の養成を目指した認定制度であり、日本臨床腫瘍薬学会(JASPO)より認定されます。認定取得のための主な条件は、①薬剤師としての実務経験が3年以上有すること ②病院薬学認定薬剤師(日本病院薬剤師会)等の認定を取得していること ③JASPOが認定するがん領域の講習または研修を60単位以上履修していること ④外来がん患者のサポート事例を10例提出すること ⑤JASPOが実施する認定試験に合格することが挙げられます。

私が敦賀医療センターで勤務していたとき、病棟業務の中で、胃がんや大腸がん等の化学療法で使用するカペシタビンやS-1、パニツムマブによる皮膚障害や nab-パクリタキセル等の末梢神経障害、FOLFIRINOX 療法等の消化器症状といった副作用に対して支持療法を提案し、服薬指導を行った症例を幾度となく経験してきました。入院での化学療法導入を終え、2回目以降の化学療法の大部分が外来化学療法室での投与となることを考えると、自らが提案した外用剤等の継続指導や副作用の評価、速やかな支持療法薬の提案を、退院後も行いたいと考えるようになりました。週2回ほど外来化学療法室で業務を行えるよう調整をしていただいた後、実際に外来がん化学療法室で業務を行っていると、短い診察時間の中で主治医に対して副作用の出現を十分に伝えられていないことや、家庭環境(服薬管理方法)等などが治療を進める上で影響することを知り、薬のことだけでなく患者さんのトータルサポートへ寄り添うことにやりがいを感じ、認定薬剤師を目指すことを決意しました。

外来がん治療認定薬剤師は、実務経験3年以上、提出症例10症例と取得に関する項目が比較的少なく、経験年数の少ない若手の先生方でも目指しやすい資格と思います。資格を取得して感じたことは、知識の充実はもちろんではありますが、限られた文字数の中で症例をまとめる能力や、自己研鑽の時間を確保するために業務を効率化する能力、保険薬局薬剤師等も含めた多職種とのコミュニケーション能力が身についたことが大きな成果と感じています。

今後、がん化学療法は、相次ぐ新薬の上市とレジメンの複雑化、副作用の多様化により、がん治療認定薬剤師を始めとする認定薬剤師の活躍の場がますます広がっていくと思います。この資格に興味をもたれた先生は、ぜひ取得を目指していただき、分からないことがあれば薬剤師会の行事等でお気軽にお声がけいただければ幸いです。

趣味のページ

大阪南医療センター 仲野 真実

東近江医療センターの土江先生から引き継ぎました。大阪南医療センターでは3年間お世話になりました。職場でよくお昼ご飯を一緒に食べたり、楽しかった思い出がたくさんあります。

私の趣味は、海外旅行に行くことです。学生のころから毎年海外に行っていましたが、コロナが流行してからは行けなくなってしまい残念に思っていました。

ようやくコロナの流行も落ち着いてきたので、6月にリフレッシュ休暇で海外に行くことができました。今回はその際の写真をお届けします。



こちらは、ノルウェーでフィヨルドツアーに参加した時の写真です。あいにくの曇り空でしたが、フェリーに乗って風を感じながら日本にはない絶景を楽しむことができました。フロム鉄道から眺める景色も素晴らしかったです。



続いては、ノルウェーのベルゲンという観光都市で食べたお昼ごはんです。海鮮が美味しいと有名だったので、サーモン・白身魚の串焼きと、エビの入ったパエリアを注文しました。味はとておいしくて、魚もフワフワで絶品だったのですが、こちら

の2品でなんと1万円！！物価が高いのは知っていましたが、ここまで高いとは思わなかったです。

財布の紐をきつく締めたまま、続いてはフィンランドへ移動。私も、一緒に行った友人も marimekko や IITTALA が好きなので、いざアウトレットへ。日本では買えない破格のお値段で、気がつけば財布の紐が緩んでたくさん買ってしまいました。ムーミングッズが可愛くてたまらなかつたです。本場のサウナにも行けて大満足です。海外の方は、お酒を片手に入っていてびっくりでした。



3か国目はフィンランドからフェリーに乗ってエストニアへ。石畳の旧市街は「魔女の宅急便」の舞台の一つとあって、どこで写真を撮っても映えました。ヨーロッパ最古の薬局やタリン最古のカフェなど、色々と観光して充実した1日を過ごすことができました。久しぶりの海外旅行は、とても楽しかったです。

次回は、同じ大学で、バスケット部でも一緒だった国立循環器病研究センターの足立先生に引き継ぎたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

◆ 厳しい猛暑が続く毎日ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。熱中症対策を万全に行い、体調管理には十分ご注意ください。

◆ 先日、子供と近所の公園へ虫取りに出かけました。保育園でセミの抜け殻集めが流行っているらしく、せっかく捕まえたセミや蝶々には目もくれず、虫かごいっぱいセミの抜け殻を集めて大喜びしていました。

◆ 今号も、ご寄稿いただいた先生方のご協力により、読み応えのある内容をお届けできます。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

(Y.S.)

近畿国立病院薬剤師会誌

第八十三号 令和七年八月発行

発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局

神戸市須磨区西落合 3-1-1

(独立行政法人国立病院機構神戸医療センター薬剤部内)

発行人 会長 本田 富得(神戸医療)

編集 広報担当理事 中野 一也(大阪南医療)

広報委員 佐々木 祐太(大阪南医療)

野田 拓誠(大阪医療)

正木 美有(循環器病研究)